OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	日本のコンサート市場における均一価格の持続要因に関する研究
Author(s)	Huang, Shangyun; Wang, Zhaoyu; 李, 宜然 et al.
Citation	大阪大学経済学. 2026, 75(3・4), p. 41-41
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/104151
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【2025年度　学生懸賞論文受賞作　最優秀賞要旨】

日本のコンサート市場における均一価格の持続要因に関する研究

Huang Shangyun　Wang Zhaoyu　李宜然　森本飛鳥　佐々木伶奈

日本の大規模ライブコンサート市場では，欧米で広く採用されている座席別の差別価格制とは対照的に，均一価格制が依然として多くの人気公演で採用されている。本研究は，日本市場における均一価格制の持続要因を，消費者の支払意思額（WTP）分布とそれに基づく収益構造，および価値観の観点から実証的に検討することを目的とする。特に，価格制度選択が文化的慣習によるものか，あるいは収益最大化行動として合理的に説明可能であるかを明らかにする点に主眼を置いた。

分析には，日本全国の 15 ～ 74 歳を対象としたインターネット調査（有効回答 2,004 件）を用いた。調査では，均一価格制および差別価格制を採用するアーティストへの関心，ライブ参加経験，チケット価格に対する WTP を複数価格点での購入意思（二値選択）により測定し，さらに平等重視・現状維持志向などの価値観指標を収集した。

対象アーティストは，大規模会場での公演実績に基づき，均一価格制のみ採用するアーティスト，差別価格制のみ採用するアーティスト，および両制度を併用するアーティストに分類した。このうち単一制度を採用するアーティストから 24 組を抽出して提示し，回答者を関心の組合せに応じて「均一価格制アーティストのみ」・「差別価格制アーティストのみ」・「両方に関心」の 3 群に分類した。推定では価格別需要指標から需要曲線および収益曲線を構築し，統計検定および回帰分析により仮説を検定した。

第 1 に，均一価格制ファンの WTP 分布がより均質であるとする仮説は支持されなかった。両制度のファン間で分散差は統計的に有意ではなく，需要均質性のみで均一価格採用を説明することは困難である。第 2 に，需要および収益曲線は均一価格制アーティストにおいてライト層とコア層からなる二峰性分布に対応した非凹形状を示し，価格設定誤差が収益損失を拡大させ得る構造が確認された。この結果は，価格設定リスク回避として均一価格が合理的に選択され得る可能性を示唆する。第 3 に，価値観に関する回帰分析では，平等重視および現状維持志向が均一価格制アーティストへの関心と有意な正の関連を持つことが確認され，制度支持の心理的基盤の存在が示された。

以上の結果は，日本のコンサート市場における均一価格制が単なる慣行ではなく，非凹な収益構造への合理的対応と消費者価値観の双方によって支えられている可能性を示す。本研究は，ライブエンタテインメント市場の価格戦略を行動経済学的視点から再評価するとともに，価格制度設計と配分メカニズムを統合的に検討する必要性を提起するものである。